

平成2年度（第76回）全国図書館大会・第11分科会《図書館員養成》報告

本年度の図書館大会における当部会主催の分科会は10月25日午前9時30分より静岡市民文化会館において、部会員、その他で約60名の参加のもと「'90年代の司書養成を考える」をテーマに開催された。その概要は次のとおり。

開会挨拶：運営委員 加納正巳氏（静岡県立大学）

静岡県立大学とその前身校における図書館学教育の整理統合の経緯と、静岡県立図書館の人事異動を巡る動きとの報告を兼ねた挨拶があった。

プログラム

1. 部会長報告：今まどり氏（中央大学）

参考資料No. 1（表1, 2, 3）

表1. 司書講習科目素案

科 目 名	単位数
<必修科目>	(15)
生涯学習・社会教育の基礎	1
図書館活動と図書館の経営	2
図書館資料	2
目録と分類	2
情報管理	2
情報サービスと参考調査	2
図書館演習	2
奉仕計画立案の実際；参考調査の実際；奉仕活動の技術；データ入力，データベース検索の実際	(1)
目録記入の実際；資料分類の実際	(1)
図書館特講（内容選択）	2
図書館の施設と設備；人文科学及び社会科学の書誌解題；自然科学と技術の書誌解題；マス・コミュニケーション；視聴覚教育；調査の種類と技法；出版と流通；図書館活動と著作権；図書館とボランティア；図書館の歴史；諸外国の図書館；情報化と図書館；国際化と図書館；児童室の経営；コミュニケーション論；カウンセリングの技術	
計	15

「文部省による司書講習科目見直し」についての経過が「図書館雑誌」Vol. 84, No. 7, (1990. 7.), p. 442-3に基づき以下のとおり報告された。

・宮崎大会以降の図書館学教育改善に対する当部会の取り組み。

・当部会創立30周年記念シンポジウムの開催。（平成2年1月）→会報第29号参照

・文部省社会教育審議会社会教育施設分科会図書館に関するワーキング・グループの発足（平成2年2月）

・上記のワーキング・グループによる素案と再修正案の紹介→参考資料No. 1 参照

司書・司書補講習の科目の内容（再修正案）（仮案）

表2. 司書講習

科 目	単 位	内 容	摘要（現行科目）
生涯学習と図書館		生涯学習の理念、学校教育及び社会教育の意義と役割、施策の現状等を概観し、併せて生涯学習の振興と図書館の責務、動向及び社会的機能について体系的に解説する。 1) 生涯学習の理念（系譜、施策の現状にも触れる） 2) 生涯学習と学校教育 3) 生涯学習と社会教育 4) 生涯学習の内容・方法・形態と学習者 5) 社会教育施設の経営と指導者（各種学習関連施設間の連携・協力を含む） 6) 生涯学習と図書館 7) 図書館の社会的機能（館種・歴史を含む） 8) 図書館の動向（図書館協力問題も含む） 9) 図書館行政（図書館法、その他社会教育法等関係法規も含む） 10) 国際化と図書館（諸外国の図書館の実情を含む）	社会教育① 図書館通論 図書及び図書館史 ①のうち図書
図書館活動と図書館の経営		図書館の管理運営一般について概説するとともに、利用者に対する館内、館外の奉仕活動一般について体系的に解説する。 1) 図書館の管理（組織、予算、企画、人事等）と実務 2) 図書館の施設と設備 3) 図書館員の責務と研修・養成 4) 情報の提供（他の科目との関連を踏まえつつ図書館に関する情報サービスについて概説する） 5) 図書館奉仕と著作権 6) 奉仕計画（各種調査、広報を含む）策定の意義とその手順 7) 奉仕活動の特質とその体系 8) 奉仕活動の実際（児童、青少年、成人、婦人、高齢者、障害者等に対する奉仕活動） 9) 奉仕活動とボランティア 10) 児童奉仕の意義と方法 11) 児童室の経営（各種事業の企画・立案、学校図書館等との連携・協力を含む） 12) 図書館奉仕の協力（他の図書館、関連機関との連携・協力の在り方等） 13) 地域図書館計画	図書館通論 図書館活動2 青少年の読書と資料① 図書館の施設と設備①
図書館資料		視聴覚資料、地域資料、その他の資料を含めての図書館資料全般の特質を論じ、資料選択上の着眼点及び参考資料を紹介するとともに地域資料及び逐次刊行物の収集、整理、利用上の留意点を述べる。 1) 図書館資料の類型とその特質	図書館資料論2 資料整理法特論① 図書及び図書館史 ①のうちの図書 青少年の読書と資料①

	2) 選択の基準とその着眼点及び主要参考資料の利用法 3) 資料の生産と流通（外国事情にも触れる） 4) 蔵書構成の諸問題 5) 資料の受入と払出 6) 資料の維持管理 7) 視聴覚資料、地域資料、及び逐次刊行物の収集、整理、利用上の留意点 8) 児童図書等の収集、整理、利用上の留意点	
資料組織法	資料組織法の意義と理念を論じ、その実務を解説する。 1) 資料組織の意義 2) 目録の意義・機能・種別 3) 日本目録規則（NCR）その他の目録規則の解説及びその適用（洋書にも言及する） 4) 機械化における資料組織の在り方について 5) 分類の意義 6) 日本十進分類法（NDC）その他の分類法の解説及びその適用	資料目録法2 資料分類法2
情報管理 （情報検索）	情報検索、文献検索、抄録法、索引法、機械的処理等について総合的に解説する。 1) 情報についての基本的理解 2) 情報及び文献検索の意義 3) 情報の処理とその方法 4) 抄録作成法 5) 索引作成法 6) 機械的処理の方法（情報処理機器の種類と概要を含む） 7) コンピュータ・システムの概要 8) データベースの構成と管理	情報管理①
情報サービス と参考調査	学習相談及び学習情報提供の意義、図書館における情報サービスの種類、参考調査の方法等の概要を述べるとともに、参考図書やデータベースのうち基本的なものにつき解説し、その利用法に及ぶ。 1) 学習相談（カウンセリングの技術を含む）及び学習情報提供の意義と図書館における情報サービスの在り方（他の図書館、関連機関との関係にも触れる） 2) 情報サービスの種類（レファレンス・サービス、レフェラル・サービス、カレント・アウェアネス・サービス等）と意義 3) 参考調査の組織・処理の方法 4) 参考図書の解説と利用法	

図書館演習 I 類 II 類 III 類	5) 主要データベースの解説と利用法 6) データベース検索の方法（オンライン情報検索に及ぶ） 基本的な実務に関する演習を通して、実践的な能力の養成を図る。 1) 奉仕計画立案の実際（広報誌、調査票の作成を含む） 2) 児童・青少年、障害者等に対する奉仕活動の実際と技術（ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、対面朗読、書誌解題等） 3) 参考調査の実際 4) データ入力、データベース検索の実際 5) 目録記入の実際 6) 資料分類の実際	参考業務演習 1 資料目録法演習 1 資料分類法演習 1
図書館特講	A 案 2 科目選択 (1) 人文科学及び社会科学の書誌解題 (2) 自然科学と技術の書誌解題 (3) 児童図書等の書誌解題 (4) 出版と流通 (5) コミュニケーション論 (6) 視聴覚教育メディア (7) 調査の種類と技術 B 案 3 類中 2 類について各類選択 I 類 (1) 人文科学及び社会科学の書誌解題 (2) 自然科学と技術の書誌解題 (3) 児童図書等の書誌解題 II 類 (4) 出版と流通 (5) コミュニケーション論 III 類 (6) 視聴覚教育メディア (7) 調査の種類と技法	

表3. 司書補講習

科 目	単位	内 容	摘要（現行科目）
生涯学習と図書館		司書講習に同じ	社会教育 図書館概論 図書館史
図書館活動と図書館の経営		司書講習に同じ	図書館概論 閲覧と貸出 2 図書館施設
図書館資料		司書講習に同じ	図書整理法 1 視聴覚資料 1
資料組織法		司書講習に同じ	図書の目録と分類 3
情報管理の基礎		情報についての基本的理解を図るとともに情報探索、文献探索、抄録作成法、索引法、機械的処理等の基礎について総合的に解説する 1) 情報についての基本的理解 2) 情報及び文献探索の意義 3) 情報の処理の意義とその方法 4) 抄録、索引作成及びファイリングの意義とその方法 5) 機械的処理の方法 6) 情報処理機器の種類と概要 7) コンピュータ・システムの概要 8) データの入力と修正	
レファレンス・サービス		レファレンス・サービスの組織及び方法等の概要を述べ、一般的参考図書のうち基本的なものにつき解説し、その利用法に及ぶ。 1) レファレンス・サービスの意義 2) レファレンス・サービスの組織・処理の方法 3) 参考図書の解説と利用法	参考書解題 1
図書館演習		基本的な実務に関する演習を通して、実践的な能力の養成を図る。 1) 製本と修理の技術 2) 視聴覚機器の操作 3) 情報処理機器の操作（複写機器を含む） 4) 目録記入の実際 5) 目録検索の技術 6) データ入力、データ修正の実際 7) ファイリングの実際	製本と修理 1 複写技術 1

図書館特講	以下の3つの類から2類について、それぞれの類に掲げる内容を適宜選択し、基本的知識の修得及び幅広い視野と社会的関心の養成を図る。 I類 1) 人文・社会の基本図書 2) 科学・技術の基本図書 II類 3) 注文と受入 4) マス・コミュニケーション III類 5) 視聴覚機器の種類と特性 6) 図書館の統計	図書館統計1 ジャーナリズム
-------	---	-------------------

2. 文部省の見直し案についてのコメント(私見)

1) 丸山昭二郎氏(鶴見大学)

司書・司書補講習の現状：受講希望者数は低落傾向に歯止めがかかった。

今回の文部省案は司書と司書補の関連など評価すべき点もある。

図書館員養成のグランド・デザインを作ってから、カリキュラムの是非を論じたほうがよい。

2) 菊池しづ子氏(学習院女子短大)

短大で司書課程を開講すると現行以上の単位数への増加は困難である。

養成の充実を計るには、短大での司書課程の設置が難しくなるか、もしくは初級司書、上級司書などのランクづけをするしかない。

短大での養成の結果は就職者が極めて少なく、利用者教育に近い。

大学、短大を問わず、単位数1単位の科目は困る。

3) 平野英俊氏(日本大学)

目先の単位数だけを問題にするのではなく、司書の内容の高度化を考えるべきである。

司書の高度化を考えると、求められているのは図書館学の専門性ではなく、

主題知識や、幅広い教養である。

主題知識をもった司書養成を考えると、教科専門科目40単位と教職専門科目19単位とした教職資格付与の在り方が参考になる。

高学歴社会の中で、専門性を主張するためには、利用者と同等、もしくはそれ以上の学歴が必要になる。このため、司書の等級化も一案。

司書講習は受講者を現職に限定すべきである。真の教育は所定の単位数を数か月、一年といった短期に消化するだけでなく、一定の時間をかけるべきである。

4) 柴田正美氏(三重大学)

新しい案は現行のカリキュラムとは独立して考えるべきである。

大事なことは何を教えるべきかを考えることである。

まず、教育の内容を考えよ。それから、その内容を教えるために、どれだけの単位数が必要かを考えよ。

10年先、20年先、を考えて作ったのが、参考資料No. 2の案である。

→参考資料No. 2 (P.7 - 12) 参照

参考資料No.2

3つのカリキュラム内容の比較表

社教審社教施設分科会 図書館WGの改訂案		現 行		1987年8月の教育部会 研究集会での提案	
科目名	内容の概要	科目名	内容の概要	科目名	内容の概要
生涯学習 と図書館	生涯学習の理念 (系譜・施策の現状 にもふれる) 生涯学習と学校教育 生涯学習と社会教育 生涯学習の内容・方 法・形態と学習者 社会教育施設の経営 と指導者(各種学 習関連施設間の連 携・協力を含む) 生涯学習と図書館 図書館の社会的機能 (館種・歴史を含む) 図書館の動向(図書 館協力問題も含む) 図書館行政(図書館 法、その他社会教 育法、著作権法等 関係法規も含む) 国際化と図書館(諸 外国の図書館の実 情を含む)	社会教育	社会教育の意義、歴 史、現状および内容、 方法について概観す る	生涯教育 論	生涯教育の意義 生涯教育の歴史 生涯教育の現状 生涯教育の内容と方 法
		図書館通 論	図書館の社会的機能 (館種・簡単な歴史 を含み、情報管理 との関係にも言及 する) 図書館の動向(図書 館協力問題も含む) 図書館行政(図書館 法、その他社会教 育法、著作権法等 関係法規も含む)	図書館経 営論	自治体行政と図書館 現状(利用との関わ り) 図書館長の責務
				図書館概 論	(館種別)図書館の歴 史 図書館の機能 社会と図書館(法律 を含む) 図書館の将来 社会と図書館(法律 を含む)
図書館活 動と図書 館の経営	図書館の管理(組織、 予算、企画、人事 等)と実務 図書館の施設と設備 図書館員の責務と研 修・養成 情報の提供(概説) 奉仕計画(各種調査、 広報を含む)策定 の意義とその手順 奉仕活動の特質とそ の体系 奉仕活動の実際(児 童、青少年、成人、 婦人、高齢者、障 害者等に対する奉 仕活動)	図書館通 論	図書館の内部管理 (組織・予算・企画・ 人事・施設設備等) と実務 図書館員の責務とそ の研修・養成	図書館経 営論	職場の管理(職員の 問題など) 図書館長の責務 課題と将来
		図書館活 動		図書館概 論	図書館員の責務 図書館員の養成と研 修
		図書館活 動	奉仕活動の特質とそ の体系 奉仕の対象と方法 (児童・青少年・成 人・婦人等に対す る奉仕活動)	図書館施 設計画法	図書館の地域計画
				図書館奉 仕論	住民に対する活動の 本質 児童・青少年に対す るサービス 障害者に対するサー ビス

	奉仕活動とボランティア 児童奉仕の意義と方法 児童室の経営（各種事業の企画・立案、学校図書館等との連携・協力を含む） 地域計画とライブラリーシステム 図書館奉仕の協力（他の図書館、関連機関との連携・協力の在り方等）	青少年の読書と資料	青少年の読書の特性と、それに適応した指導方法		
図書館資料	図書館資料の類型とその特質 選択の基準とその着眼点および主要参考資料の利用法 資料の生産と流通（外国事情にも触れる） 蔵書構成の諸問題 資料の受入と払出 資料の維持管理 視聴覚資料、地域資料および逐次刊行物の収集、整理、利用上の留意点	図書館資料論	図書館資料の類型と特性 選択の基準とその着眼点および主要参考資料の利用法 資料の生産と流通（外国事情にも触れる） 蔵書構成の諸問題 資料の受入と払出 資料の維持管理 郷土資料または逐次刊行物について、それぞれの収集、整理、利用上の留意点を述べる	図書館施設 設計画法 図書館奉仕論	図書館の地域計画 図書館協力
	児童図書等の収集、整理利用上の留意点	資料整理法特論		図書館資料特論	資料と情報の類型とその特性 資料の評価 資料の選択・受入・廃棄 資料の生産と流通 蔵書の構成と評価 資料の保存 逐次刊行物 地方行政資料
		青少年の読書と資料	青少年向きの資料について概論する	古文書学 図書館資料特論	視聴覚資料 歴史的郷土資料の扱い 児童・青少年のための図書館資料
目録と分類	目録の意義・機能・種別 目録規則の解説及びその適用（洋書にも言及する） 目録編成法 主題目録作成法の概要	資料目録法	目録の意義・機能・種別 目録規制の解説及びその適用（洋書にも言及する） 目録編成法 主題目録作成法（索引法を含む）の概要	資料組織論・同演習	目録の意義・機能・種別 目録規制 目録編成法 主題目録について

	分類の意義 主要分類法の説明 日本十進分類法の解説及び適用 (分類規定を含む)	資料分類法	分類の意義 主要分類法の説明 日本十進分類法の解説及びその適用 (分類規定を含む)	資料組織論・同演習	分類の意義と機能 主要分類法の解説
情報管理	情報についての基本的理解 情報及び文献検索の意義	情報管理	情報探索、文献探索	情報管理論 参考調査法・同演習	情報の基礎概念 情報と社会 データベースと参考調査 各種のデータベースの特性 データベースの利用 演習
	情報処理とその方法 抄録作成法 索引作成法 機械的処理の方法 (情報処理機器の種類と概要を含む) コンピュータ・システムの概要 データベースの構成と管理	情報管理	抄録法 索引法 機械的処理等	情報管理論	情報システムの概念と機能 抄録作成法 索引作成法 情報処理機器の概要
情報サービスと参考調査	学習相談(カウンセリングの技術を含む)及び学習情報提供の意義と図書館における情報サービスの在り方(他の図書館、関連機関との関係にも触れる) 情報サービスの種類(レファレンス・サービス、レフェラル・サービス、カレント・アウェアネス・サービス等) 参考調査の組織・処理の方法 参考図書の解説と利用法	参考業務	参考業務の意義・組織・処理の方法 参考図書の解説 参考図書の利用法	参考調査法・同演習	文献調査と生活 図書館における発達と歴史 参考調査業務の管理と評価 参考調査資料の組織化 参考調査資料の解説

	主要データベースの解説と利用法 データベース検索の方法（オンライン情報検索に及ぶ）				参考調査資料の利用法 データベースと参考調査 各種のデータベースの特性
図書館演習Ⅰ類	奉仕計画立案の実際 （広報誌、調査票の作成を含む） 児童・青少年・障害者等に対する奉仕活動の実際と技術 （ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、対面朗読、書誌解題等）				
図書館演習Ⅱ類	参考調査の実際 データ入力、データベース検索の実際			参考調査法・同演習 情報管理論	参考調査の演習 データベース（基礎から作成まで） データベースの利用演習
図書館演習Ⅲ類	目録記入の実際 資料分類の実際	資料目録法演習 資料分類法演習	目録法の方法・技術に習熟させる （図書だけでなく、その他の資料におよぶ） 日本十進分類法中の基本的項目の適用に関して、実物によって演習問題を課し分類の方法・技術に習熟させる （図書だけではなく、その他の資料におよぶ）	資料組織論・同演習 資料組織論・同演習	目録規則の適用演習 主題目録作成演習 分類の方法・技術演習 主題目録作成演習
図書館特講	人文科学及び社会科学の書誌解題	人文科学及び社会科学の書誌解題	人文・社会科学に関する研究および参考資料のうち、代表的なものについて解説し利用法に及ぶ	書誌解題	各分野にわたる書誌の解題

自然科学と技術の書誌解題	自然科学と技術の書誌解題	自然科学・技術に関する研究および参考資料のうち、代表的なものについて解説し利用法に及ぶ	書誌解題	各分野にわたる書誌の解題
児童図書等の書誌解題	青少年の読書と資料	青少年向けの資料について概論する		
マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーション	現代におけるマスコミュニケーションの特性とその概要を説く	メディア文化論	コミュニケーション論
出版と流通 図書館活動と著作権 コミュニケーション論	図書館資料論	資料の生産と流通		出版文化論
視聴覚教育と情報メディア	視聴覚教育	教育における視聴覚的方法の意義および視聴覚資料の利用法一般	メディア文化論	コミュニケーション論
	図書館活動	閲覧と貸出	図書館奉仕論 図書館概論	貸出サービス 資料と情報 図書館の自由（総論） 図書館の歴史
	図書及び図書館史	図書の形態、印刷、普及、流通等に関し歴史的に概説し、併せて図書館の歴史的発展について		
	図書館の施設と設備	施設・設備に関する基準およびその計画、設計上の留意点について概説	図書館施設設計画法	図書館の施設と設備
	社会調査	図書館活動の計画および実施に必要な社会調査の方法について概説	図書館奉仕論 社会調査法	利用者の研究・利用者論 図書館統計 社会計画論 リサーチ・メソッド シュミレーションの理論と手法

			資料・メディア論	児童などの利用対象別の資料論 新しいメディアについて 図書以外の資料論 新しいメディアについて
			資料組織論・同演習	オンライン目録の形成と利用
			参考調査法・同演習	データベースと参考調査
			図書館奉仕論	図書館運動について
			情報管理論	情報システムとしての図書館
			情報システム論	情報システム・ネットワーク システム設計の考え方と手順 データベース管理システム
			図書館奉仕特論	利用者教育
			図書館資料特論	各種の二次資料 ニューメディア各論

5) 木原通夫氏（梶山女学園大学）

講習と司書課程を含む大学での教育は切り離して考えるべきである。講習科目が大学教育に影響しているとの説は理解できない。

今回の文部省案については、細切れ科目の羅列でなくなっている点は評価できるが、まだ若干の科目は公共図書館論としてまとめた方がよい。

単位数は夏季休暇のなかで納まる単位数が望ましい。

3. 「図書館学教育の実態と改善に関する調査」についての報告

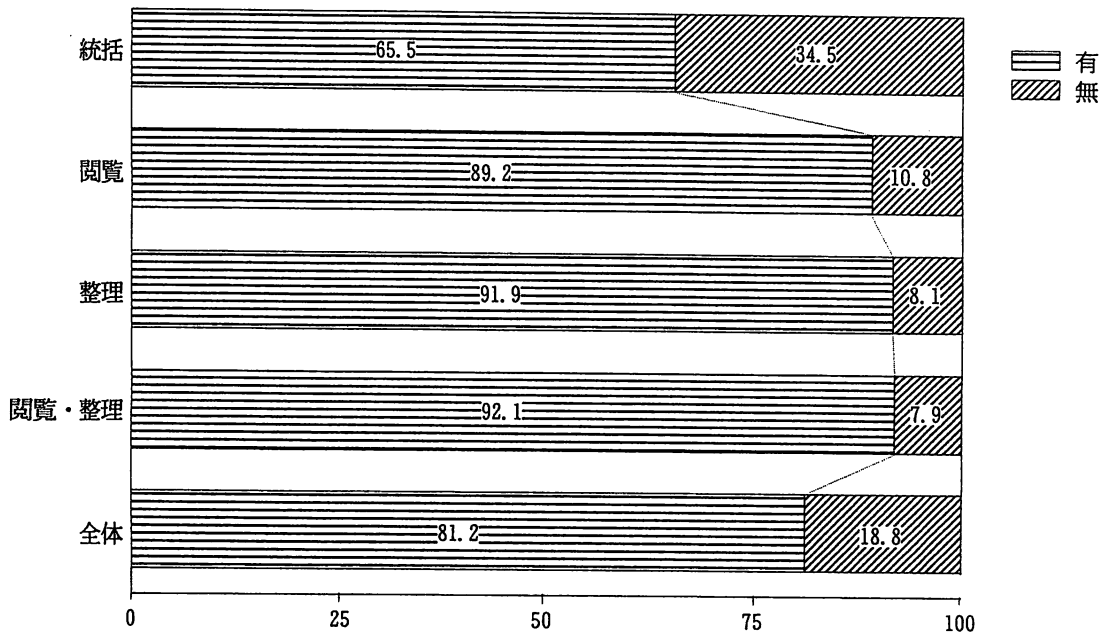
1) 大学図書館員の知識ベースと図書館学教育

三浦逸雄氏（東京大学）、菊池しづ子氏（学習院女子短大）

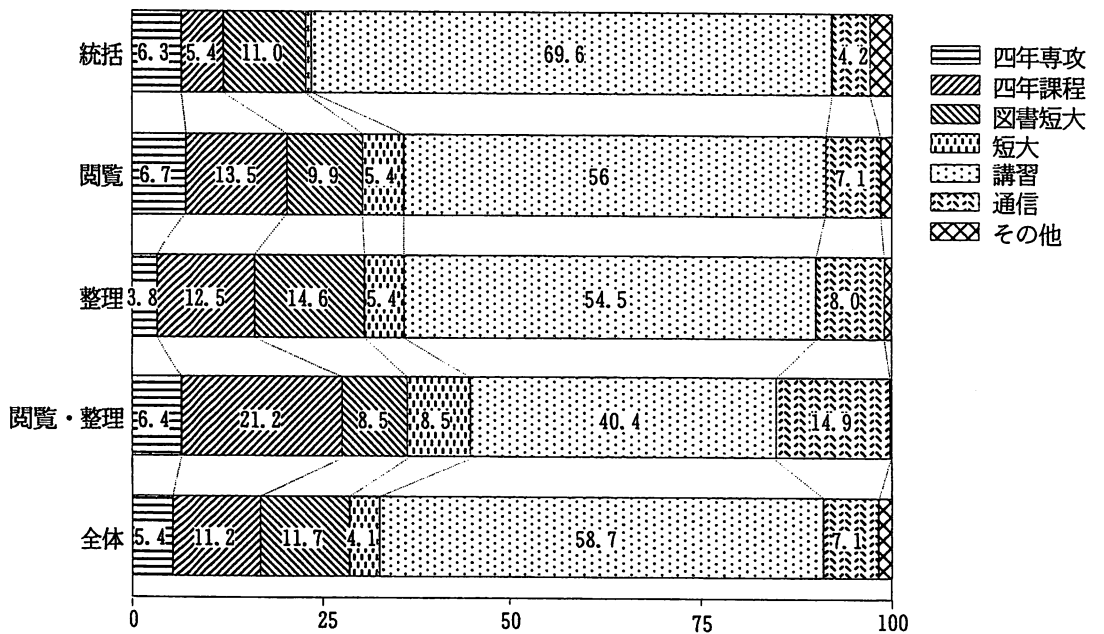
調査結果の概要は次のとおり。

→P.13 - 18 参照

役職者の司書資格



司書資格の取得方法



必要な知識・技術の順位（統括）

知識・技術（統括責任者）	順位	閲覧	整理	閲覧
閲覧・貸出サービス	1	3	2	2
基本的な二次資料	1	1	1	1
分類、件名法	3	2	4	3
資料目録法	4	4	5	7
逐次刊行物	5	4	7	3
参考調査サービス	5	8	8	7
外国語（英語）	7	4	3	14
図書館の機械化	8	8	9	10
図書館ネットワーク・協力	9	11	12	12
著作権	9	13	13	11
資料選択・収集	11	10	10	6
オンライン情報検索	12	15	14	15
基礎的な主題知識	13	7	5	5
図書館・文献利用教育	13	11	11	7
図書館関係法規・基準	15	14	15	12
ニューメディア	16	19	16	17
二次資料作成	17	21	23	16
コミュニケーション技術	18	15	19	24
資料保存・保護・製本	19	18	16	18
非図書資料及び利用機器	20	26	21	23
出版流通	21	17	18	18
広報	21	22	26	22
図書館史	23	23	20	27
障害者サービス	24	24	25	20
コンピュータ	24	29	29	30
図書・印刷の歴史	26	25	23	34
知的自由・検閲	27	19	21	25
データベース・マネジメント	28	33	32	31
官庁刊行物・特許資料	29	27	27	31
研究者の情報生産・利用	30	31	28	20
外国大学図書館事情	31	29	30	31
図書館建築・設備・備品	32	28	30	26
外国語（英語以外）	33	34	33	27
高等教育事情	33	32	34	27
大学行財政	35	37	36	38
研究調査法・統計学	36	35	35	36
高度な専門主題知識	37	38	36	35
経営理論・手法	38	36	38	37
ビブリオメトリクス	39	39	39	39

必要な知識・技術の順位・司書資格

知識・技術	資格有	資格無
基本的な二次資料	1	2
分類、件名法	2	3
閲覧・貸出サービス	3	1
資料目録法	4	5
外国語（英語）	5	11
逐次刊行物	5	6
参考調査サービス	7	6
図書館の機械化	8	4
基礎的な主題知識	9	9
資料選択・収集	10	6
図書館ネットワーク・協力	11	12
著作権	12	16
図書館・文献利用教育	12	15
オンライン情報検索	14	9
図書館関係法規・基準	15	14
出版流通	16	25
ニューメディア	16	18
資料保存・保護・製本	18	20
コミュニケーション技術	19	13
二次資料作成	19	17
図書館史	21	31
図書・印刷の歴史	22	33
知的自由・検閲	22	26
非図書資料及び利用機器	22	21
広報	22	22
障害者サービス	26	18
官庁刊行物・特許資料	27	28
コンピュータ	28	23
外国大学図書館事情	29	35
研究者の情報生産・利用	29	27
図書館建築・設備・備品	31	29
データベース・マネジメント	32	23
外国語（英語以外）	33	33
高等教育事情	34	30
研究調査法・統計学	35	38
大学行財政	36	32
高度な専門主題知識	37	37
経営理論・手法	38	36
ビブリオメトリクス	39	39

自由記述の集計

記載者人数

左：統括責任者 総数 162 名
 中：閲覧参考係 総数 144 名
 右：目録係 総数 100 名
 1 名のみの意見は省略

[I] 司書課程そのもののありかたや、資格に関する意見

1) 今のままでよい

*現状からして未だ講習に意義はある	2	0	0
*単位は充分である（期待しない、現場で身に付けるものだ）	4	2	0

2) 内容を改善すべき

*単位不足（レベルが低い、内容に差がありすぎる）	16	21	18
*講習はなくせ	2	0	1
*短大なくせ	2	0	1
*大学院にせよ	3	0	1

3) 資格に関する意見

*資格に種類が必要（公共図書館とは違う資格を、今の司書課程は大学図書館には不適）	10	13	8
*資格試験を	1	1	2
*資格に段階（初級、上級など）をつけ、統一する	2	3	4
*各主題別専門図書館員の資格を	0	5	3
*地位確保のために身分を法令で	1	1	2

4) その他

* on - job training の必要	2	4	2
-------------------------	---	---	---

〔Ⅱ〕 司書課程の中身全体について

1) 科目構成について

* 高度情報化社会に対応すべき	6	7	3
* 時代の変化に対応できる知識や技術を	3	3	8
* 時代遅れ（用語含む）	7	7	3
* 中途半端、統合性がない、再検討すべき、選択と必修の科目を入れ換えたり、丙群廃止、等	8	6	6
* もっと幅のあるカリキュラムを、選択科目を広く各種図書館毎に異なるコースを用意する	5	5	5
* 科目と実務のギャップが大	0	4	0
* 一単位科目はなくせ	2	1	0
* 演習の充実（特に整理、参考業務に多い）	5	4	6

2) その他

* 実習の要	6	9	6
* 教員の資質の向上を、人材不足	3	4	3
* 現場経験者を	0	2	0
* テキストの整備、内容の標準化	2	1	0
* 整理ばかりで情報提供者だということを教えない	1	1	1

〔Ⅲ〕 中身各論

1) 分類、目録について

* 分類へらせ	4	0	1
* 分類目録ばかりに偏りすぎ、内容不適切、古い、機械化にあわない、分類目録の分け方おかしい、indexだ	10	13	11
* 演習ふやせ	1	1	1
* 洋書目録をもっと	0	0	3
* 件名目録、シソーラス、索引、抄録をもっと	0	4	5

2) 機械化、メディア関係

* 情報管理をふやせ、必修にせよ	25	21	17
* 機械化に対応せよ、コンピュータ関係科目を入れよ	40	44	32
* 情報処理、情報科学、情報理論	17	9	14
* 情報検索、on-line 検索、データベース	10	10	6
* 参考業務ふやせ (IR の関係で)	3	4	3
* ネットワーク、相互協力	4	3	3
* ニューメディア、視聴覚教育増やせ、必須に	16	20	12
* 資料整理法特論必修に (ニューメディアの関連で)	2	2	2
* 書誌解題をふやせ、必修に	7	9	5
* 逐次刊行物	1	3	0

3) その他の科目 (図書館学および関連領域)

* 図書および図書館史を必修に	5	1	3
* 実務より理念を、通論をふやせ	5	2	2
* 大学図書館論、管理運営論、(マネジメント含む)	7	5	4
* 大学そのものの理解、大学運営と図書館の関係	4	0	3
* 法規、特に著作権法	5	5	1
* 出版流通、知的自由	4	3	2
* 古文書学、漢籍、書誌学	5	1	4
* 利用者教育	4	2	5
* 研究者と図書館、user study	1	2	2
* 青少年の読書・・・なくせ	6	1	4
* 社会教育、社会調査、マスコミは合併または減らす	6	1	3

4) その他の科目

* 各学問の学史、学問論、学術情報論	3	3	3
* 主題専門知識	3	4	4
* 語学力	8	8	7
* 対応、サービス、サービス業だという自覚	2	3	3
* 一般常識	1	1	1

2) 教育担当者の意識

小田光宏氏（独協大学）

調査結果の概要は次のとおり。

P.19 - 24 参照

[知識・技術の位置付け]

公共図書館員に必要な知識・技術

レファレンス・サービス	1. 88
児童サービス	1. 72
閲覧・貸出しサービス	1. 70
資料選択・蔵書構成	1. 69
参考図書・二次資料	1. 68
図書館協力・ネットワーク	1. 68
障害者サービス	1. 59
図書館の自由・検閲	1. 57
社会教育・生涯学習	1. 50
分類法	1. 50
広報活動	1. 48
資料目録法	1. 46
図書館経営・管理	1. 44
対人コミュニケーションの技術	1. 43
図書	1. 42
図書館の機械化	1. 41
図書館関係法規・基準	1. 40
逐次刊行物	1. 37
オンライン情報検索	1. 36
非図書資料及び利用機器	1. 33
図書館利用教育	1. 32
著作権	1. 25
地方公共団体の行財政	1. 23
出版流通	1. 20
ニューメディア	1. 19
書誌・索引・抄録作成法	1. 13
データベース	1. 11
官庁刊行物・特許資料	1. 11
調査・統計の手法	1. 05
図書館建築・設備	1. 03
図書館史	0. 95
資料保存・製本	0. 93
コンピュータ機器・プログラミング	0. 93
外国図書館事情	0. 81
図書・印刷の歴史	0. 77
研究者の情報生産・利用	0. 53
ビブリオメトリクス（計量書誌学）	0. 36

大学図書館員に必要な知識・技術

レファレンス・サービス	1. 96
参考図書・二次資料	1. 95
分類法	1. 92
図書館協力・ネットワーク	1. 92
資料目録法	1. 90
オンライン情報検索	1. 88
逐次刊行物	1. 87
データベース	1. 84
著作権	1. 83
図書	1. 82
図書館の機械化	1. 80
閲覧・貸出しサービス	1. 79
書誌・索引・抄録作成法	1. 78
資料選択・蔵書構成	1. 77
研究者の情報生産・利用	1. 75
図書館の自由・検閲	1. 67
外国図書館事情	1. 66
ニューメディア	1. 66
図書館利用教育	1. 64
図書館経営・管理	1. 64
官庁刊行物・特許資料	1. 63
図書館関係法規・基準	1. 61
非図書資料及び利用機器	1. 61
対人コミュニケーションの技術	1. 56
図書館史	1. 54
出版流通	1. 52
コンピュータ機器・プログラミング	1. 52
調査・統計の手法	1. 50
広報活動	1. 47
図書・印刷の歴史	1. 47
資料保存・製本	1. 43
図書館建築・設備	1. 35
障害者サービス	1. 25
大学の行財政	1. 21
社会教育・生涯学習	1. 18
ビブリオメトリクス（計量書誌学）	1. 11
児童サービス	0. 49

[表：知識・技術の授業における扱い（％）]

	扱っている	扱わない	今後扱う 予定である	予定はない が扱いたい	わからない
資料目録法	99.46	0.54	0.00	0.00	0.00
分類法	99.46	0.54	0.00	0.00	0.00
レファレンス・サービス	98.91	0.54	0.00	0.54	0.00
閲覧・貸出しサービス	95.00	2.22	1.67	0.00	1.11
参考図書・二次資料	93.92	1.66	1.66	2.21	0.55
資料選択・蔵書構成	93.37	1.66	2.21	2.21	0.55
図書館史	90.66	2.20	3.30	3.85	0.00
図書・印刷の歴史	90.45	5.06	1.12	2.25	1.12
逐次刊行物	89.83	3.39	1.69	2.26	2.82
図書	88.89	4.09	1.75	2.92	2.34
図書館協力・ネットワーク	87.15	1.12	5.03	5.03	1.68
図書館の自由・検閲	84.66	7.39	2.27	2.84	2.84
図書館関係法規・基準	82.22	4.44	3.89	6.11	3.33
児童サービス	77.22	6.67	4.44	8.89	2.78
社会教育・生涯学習	74.14	7.47	6.90	9.77	1.72
出版流通	72.88	6.78	6.78	7.91	5.65
著作権	68.75	5.68	9.66	12.50	3.41
図書館経営・管理	68.57	8.00	8.57	10.29	4.57
非図書資料及び利用機器	67.61	7.95	6.82	14.20	3.41
書誌・索引・抄録作成法	63.43	4.00	9.14	20.57	2.86
図書館の機械化	62.01	2.23	14.53	16.76	4.47
広報活動	59.43	10.86	10.86	12.57	6.29
障害者サービス	58.99	6.74	7.30	17.42	9.55
官庁刊行物・特許資料	55.23	11.05	8.14	18.02	7.56
オンライン情報検索	54.80	3.39	20.34	18.08	3.39
データベース	53.71	6.29	16.57	19.43	4.00
図書館利用教育	52.30	9.77	14.37	17.24	6.32
図書館建築・設備	48.59	20.34	8.47	19.77	2.82
ニューメディア	46.24	7.51	16.18	24.28	5.78
外国図書館事情	45.40	12.64	12.07	21.26	8.62
資料保存・製本	44.19	21.51	6.98	22.09	5.23
コンピュータ機器・プログラミング	41.81	14.69	15.25	23.16	5.08
調査・統計の手法	41.38	17.24	9.77	27.59	4.02
研究者の情報生産・利用	35.47	22.67	11.05	21.51	9.30
地方公共団体の行財政	27.33	27.33	16.36	20.93	7.56
対人コミュニケーションの技術	23.67	18.93	10.06	37.28	10.06
ビブリオメトリクス（計量書誌学）	14.79	36.69	7.10	26.63	14.79

[省令科目に対する意見]

I. 省令科目と公共図書館員養成（分析対象 142名）

A. 全般的な意見

* 「全体の構成を見直す必要がある」	22
* 「必修・選択必修について改善すべきである」	
<すべての科目を必修科目にする>	5
<選択科目乙群を必修科目にする>	2
<選択科目丙群を必修科目にする>	2
<全般に見直す必要がある>	1
<必修科目を増やす>	1
<必修科目を減らす>	1
* 「科目構成等が以下の点に偏っている」	
<整理技術中心である>	11
<実務科目中心である>	2
<講義科目中心である>	1
<資料面に偏り利用者を扱う視点が欠落している>	1
<図書以外の資料を扱う余地がない>	1
* 「単位数について改善すべきである」	
<総単位数が不足している>	31
<選択科目の単位数が不足している>	20
<単位数は現状維持が望ましい>	1
<単位数の配分>	2
* 「全体的に古い」「現代社会に合わない」	8
* 「司書資格を見直す必要がある」	8
* 「科目数が少ない」	4
* 「構成よりも内容を重視する必要がある」	4
* 「生涯学習の観点を必要とする」	2
* 「科目内容を明確にする必要がある」	1

B. 個別の科目に対する意見

* 「科目を合併させる」	
<資料目録法と資料分類法>	3
<参考業務と書誌解題>	1
<図書館通論と図書館の施設と設備>	1
<図書館通論と図書館資料論と図書館活動>	1

科目名	意見	単位数が不足している	必修科目にする	選択科目にする	科目内容・名称等を見直す	廃止する
図書館通論		6		0	# 1	0
図書館資料論		4		0	0	0
参考業務		1		0	0	0
参考業務演習		1		0	0	0
資料目録法		2		0	\$ 2	0
資料目録法演習		1		1	0	0
資料分類法		2		0	# 1 \$ 2	0
資料分類法演習		1		1	0	0
図書館活動		4		0	0	0
青少年の読書と資料		1	8		0	0
図書及び図書館史		4	2		# 1 \$ 2	0
図書館の施設と設備		0	0		0	0
資料整理法特論		2	1		# 4	0
情報管理		9	12		# 1	0
社会教育		0	2		0	0
社会調査		0	1		\$ 2	1
書誌解題（区別不明）		2	4		# 4	0
マスコミュニケーション		0	0		0	1
視聴覚教育		1	2		# 5	0

（注）#は、肯定的な意味での見直し。\$は、否定的な意味での見直し。

C. 新規に導入すべき科目、充実すべき主題

* 「機械化」 「コンピュータ」 「ニューメディア」	31
* 「図書館管理」 「図書館運営」 「図書館システム」	16
* 「地域環境」 「利用環境」 「コミュニティ」 「利用者」	15
* 「児童図書館」 「児童サービス」 「児童」	13
* 「地方公共団体の行財政」 「地域行政」	12
* 「障害者サービス」 「アウトリーチ」 「社会福祉」	9
* 「情報検索」 「データベース」	9
* 「情報理論」 「情報科学」 「情報学」	9
* 「図書館実習」	7
* 「サービス精神」 「対人関係」 「図書館サービス」	7
* 「図書館協力」 「ネットワーク」	5
* 「古文書」 「書誌学」	5
* 「情報処理」 「プログラミング」	4
* 「読書」	3

2名の意見：「郷土・地域資料」 「書誌作成」 「生涯学習」 「コミュニケーション論」

1名の意見：「逐次刊行物」 「図書館教育」 「公立図書館論」 「著作権」 「図書館学演習」

Ⅱ. 省令科目と大学図書館員養成（分析対象 144名）

A. 全般的な意見

*「全体の構成を見直す必要がある」	13
*「選択科目を見直す必要がある」	4
*「主題専門家を育成する」「主題知識の修得」	13
*「外国語の知識の修得」	7
*「必修・選択必修について改善すべきである」	
<すべての科目を必修科目にする>	1
<全般に見直す必要がある>	1
*「科目構成等が以下の点に偏っている」	
<整理技術中心である>	3
<実務科目中心である>	1
<図書以外の資料を扱う余地が少ない>	1
*「単位数について改善すべきである」	
<総単位数が不足している>	16
<選択科目の単位数が不足している>	3
<必修科目の単位数が不足している>	1
<必修科目の単位数を削減する>	1
<単位数の配分>	1
*「大学図書館員の資格制度を新たに作る」	10
*「まったく意味をなさない」	7
*「全体的に古い」「現代社会に合わない」	4
*「構成よりも内容を重視する必要がある」	4
*「科目数が少ない」	1
*「学術的観点を必要とする」	1

B. 個別の科目に対する意見

*「科目を合併させる」	
<参考業務と書誌解題>	1

科目名 \ 意見	単位数が不足している	単位数を削減する	必修科目にする	廃止する
図書館通論	1	0		0
図書館資料論	1	0		0
参考業務	0	0		0
参考業務演習	2			0
資料目録法	2	1		0
資料目録法演習	2			0
資料分類法	2	1		0
資料分類法演習	2			0
図書館活動	0	0		1
青少年の読書と資料	0		0	5
図書及び図書館史	0		0	0
図書館の施設と設備	0		0	0
資料整理法特論	0		0	0
情報管理	4		6	0
社会教育	0		0	4
社会調査	0		0	2
書誌解題（区別不明）	7		4	0
マスコミュニケーション	1		1	0
視聴覚教育	0		0	1

C. 新規に導入すべき科目、充実すべき主題

* 「情報検索」 「データベース」 「文献検索」	20
* 「機械化」 「コンピュータ」 「ニューメディア」	19
* 「学術情報」 「学術資料」 「研究情報」	15
* 「図書館管理」 「図書館運営」 「図書館システム」	13
* 「研究者」 「利用者」	12
* 「大学運営」 「大学教育」 「大学史」	9
* 「書誌」 「書誌・索引作成」	9
* 「古文書」 「書誌学」	6
* 「図書館利用教育」	6
* 「情報理論」 「情報学」	5
* 「図書館実習」	5
* 「情報処理」 「プログラミング」	4
* 「大学図書館論」	4

2名の意見：「対人関係」 「ネットワーク」 「情報管理演習」 「外国資料」

1名の意見：「英文タイプ・ワープロ」 「著作権」 「資料保存」 「逐次刊行物」
「ドキュメンテーション」 「ビブリオメトリクス」

4. 討論、並びに決議

参加者からの質問や、発表者からの補足として、次の決議案を採択し、翌日の全体会に説明などの後、全体の意見を集約するもの 報告することとなった。

決議文

日本図書館協会理事長 高橋徳太郎殿

全国図書館大会決議：司書養成科目（省令）の改善について（要望）

去る1987年10月、全国図書館（東京）大会・第1分科会の名のもとに、私たちは「司書養成科目（省令）改定に向けて」要望書を貴協会宛、提出いたしました。これは、貴協会・図書館学教育部会による研究集会をはじめ、さまざまな機会における討議の結果、「図書館法施行規則」改定以来20年の年月が経過し、多様化した社会の要求に応える司書養成を行うことが極めて困難であるというコンセンサスに基づくものであります。

その後、貴職や事務局長をはじめ、各位のご理解、ご尽力により、同年12月、貴協会・理事長名で文部省社会教育局長宛の要望書（「図書館法施行規則」における司書等養成科目等の改定について）が、また、昨1989年8月には、再び要望書（文部省令科目の改正に向けて）〈同省生涯学習局長宛〉が、それぞれ提出されました。

しかるに本年4月に明かとなった社会教育審議会社会教育施設分科会図書館に関するワーキング・グループの検討会で提示された『司書及び司書補の講習内容見直しのための素案』によりますと、現行の単位数及び教育内容について大幅な変更が予定されております。同案は、私たちが従来、主張してきた要望の内容とは異なり、後退した内容となっております。もし同素案が成案となったとき、今後のわが国における専門職としての司書養成のあり方に大きな禍根を残すおそれが十分にあります。

ここに私たちの従来の主張を再確認するとともに同素案がその線に一步でも近づくべく、貴職におかれましても貴協会の総力をあげて、今後ともわが国の図書館界が意のある方向に進むよう、行動を起こされることを、第76回全国図書館（静岡）大会・第11分科会の名において強く要望するものであります。

1990年10月25日 静岡市民文化会館にて

全国図書館大会・第11分科会
〈図書館員養成〉参加者一同

なお、この決議は10月26日の全体会で異議なく承認され、平成2年度全国図書館大会の決議として、日本図書館協会常務理事会へ報告された。

-以上-

平成2年度 図書館学教育部会総会記録

日 時：平成2年6月1日（金）

場 所：日本図書館協会 4階会議室

出席者：森 耕一、塩見 昇、平塚禪定、高橋
和子、今まど子、古賀節子、渋谷喜彦、
鈴木英二、鳥居美和子

（順不同、以上9名）

委任状提出者：28名（部会員総数：179名）

I 会の構成

1. 議長指名：議長 塩見昇、
2. 議事録署名人指名：高橋和子、平塚禪定

II 議 事

1. 平成元年度事業報告
総会資料に基づき、今部会長より報告
2. 平成元年度決算報告及び監査報告
渋谷会計担当幹事より報告
議題1、2を一括審議、承認
3. 平成2年度事業計画
平成2年度定期総会プログラムの議題
5、「社会教育審議会図書館に関するワーキング・グループに提示された司書・司書補講習科目案について」、文部省生涯学習局学習情報課長および文部省関係者と今教育部会長、渋谷・高山教育部会幹事および日図協理事数名を入れた話合いの内容も含めた、これまでの経過報告がなされこれをふまえて、平成2年度事業計画について検討がなされた。

ア. 第21回図書館学教育研究集会及び交流会

日 時：平成2年6月30日（土）

場 所：中央大学駿河台記念館

テーマ：社会教育審議会図書館に関する
ワーキング・グループに提示された司書・司書補講習科目案について

現在の状況からみて、6月30日迄に新しい動きもあると思えないことから研究集会開催日時を少し延期したい由、部会長より説明がなされた。

イ. 全国図書館大会（静岡県）第11会分科会

日 時：10月25日（木）9：30－16：00

場 所：市民文化会館 第1会議室

テーマ：'90年代の司書養成を考える

加納正巳氏（静岡県立大学）に運営委員を委嘱し、長沢雅男氏（東京大学）ほかによる、研究グループが行った図書館員養成に関する調査結果の発表を中心に運営される由、部会長より説明がなされた。

ウ. 会報発行 年3回（29,30,31号）

図書館学教育部会30周年記念シンポジウムの全記録を収載した第29号を平成2年度の事業とし、従って、平成2年度は年3回の発行としたい由、説明がなされた。

エ. 教育部会幹事改選について

表記の件につき、選挙管理委員長を岡田靖氏（鶴見大学）に委嘱したことが報告された。

オ. 日本図書館協会100周年記念事業への参加

100周年史編集委員会の教育部会推薦委員中村初雄氏より、部会史についての原

稿執筆依頼があり、部会幹事岩猿敏生氏が、その枠組の検討を行っていることが報告された。

カ. 図書館学教育改善への取組み－継続

表記の件については、シラバスの作成を考えていたが、本年度は、諸般の状況からみて着手しない方針としたいことが報告された。従来の図書館学教育担当者名簿（日本の図書館学教育誌名変更）作成の調査を昨年の総会で3年毎に改訂することを決めたが、現状が変わることも予測できるので、本年度の改訂は取止め、今回は従来通り5年後の改訂としたいことが報告された。

4. 平成2年度予算

渋谷幹事より予算総額794,786円の費目別予算案についての説明が行なわれた。

以上、議題3,4を一括承認。

5. その他

文部省より示された講習科目の改訂の意向及び改訂案を中心に、文部省と連絡をとりながら、部会員にも現状報告をしてほしい、現場の人の意見や大学図書館部会との連絡もとっていく必要がある等の意見の交換がなされた。

日本図書館協会図書館学教育部会
平成元年度決算報告

収入の部

費 目	予 算	決 算	備 考
会 費	306,000	299,000	
交 付 金	180,000	180,000	
雑 収 入	30,000	28,545	預金利子、NCR 検討会残金等
繰 越 金	149,558	149,558	
合 計	665,558	657,103	

支出の部

費 目	予 算	決 算	備 考
事 務 用 品 費	5,000	3,923	
手 数 料	7,500	7,294	郵便振替手数料等
会 議 費	60,000	6,710	
通 信 費	30,000	31,798	
交 通 費	350,000	193,340	
会 報 等 印 刷 費	100,000	33,217	第28号
研 究 集 会 等 費	60,000	58,725	30周年記念集会・図書館大会等
雑 費	53,058	13,500	アルバイト賃金
次 期 繰 越 金		308,596	
合 計	665,558	657,103	

日本図書館協会図書館学教育部会
平成2年度予算案

収入の部

費 目	予 算	備 考
会 費	306,000	2,000 × 170 × 0.9
交 付 金	180,000	
雑 収 入	3,000	預金利子、刊行物売上代等
繰 越 金	308,596	
合 計	797,596	

支出の部

費 目	予 算	備 考
事 務 用 品 費	5,000	
手 数 料	10,000	郵便振替手数料等
会 議 費	60,000	幹事会および省令科目改訂のための拡大幹事会等
通 信 費	50,000	
交 通 費	350,000	幹事会および省令科目改訂のための拡大幹事会等
人 件 費	20,000	会報編集等のアルバイト賃金
会報等印刷費	120,000	第29・30・31号
研究集会等費	60,000	図書館大会・夏期研究集会等
選挙管理費	60,000	
予 備 費	62,596	
合 計	797,596	

元部会長の先生方へ図書館学教育部会
感謝状の贈呈

会報第29号でお知らせしたように、当部会30周年記念祝賀会において、当日出席の部会長経験者である中村、浜田、室伏の各先生に感謝状が贈呈されたが、当日欠席された他の部会長経験者である岡田温先生、深川恒喜先生、北嶋武彦先生にも、後日、部会から感謝状が贈呈された。

《お知らせ》

幹事会記録は編集上の都合により次号に掲載させていただきます。

編集後記

今年2月以降、文部省社会教育審議会のワーキング・グループが提出した司書講習科目見直し案、更にはその修正案をめぐって、単位数や科目内容等を中心に教育部会幹事会は忙殺されてきました。今年の図書館大会第11分科会のテーマもこの問題がとり上げられましたが、その状況は本号で報告したとおりです。折しも、文部省の大学審議会では高等教育計画部会の中間報告、大学院部会と短期大学教育専門委員会の報告が発表されました。何れの報告も教育内容の質的充実に向けて、教育の自由競争による自然淘汰を促す内容になっています。いよいよ図書館学教育も高等教育の一翼を担えるかどうかを真に問われる時代になりつつあるようです。

(高山 正也)